



# 立命館大学BKCインキュベータ かわらばん 12月号



編集:宮澤元気

2013年12月17日(火)に第19期インターン生の**中間報告会**がありました。中間報告会とは、前半三ヶ月の個々における勤務内容を先生方に発表して、評価をいただく大切な報告会です。**下記に五人のインターン生の反省を記載しました。**

中間報告会は、一方的なプレゼンとなってしまいました。もう少しコミュニケーションを意識して、聞き手にとって分かりやすい発表を心懸けたいと思います。また今後に向けては、もっと能動的に業務に取り組み、残り三ヶ月を後悔なく過ごしたいと思います。  
(東谷)

緊張感のある報告会で雰囲気飲み込まれ、自分の頭のなかに思い描いていることを伝えることができませんでした。最終報告会に向けて、プロジェクト業務の中身をより充実させ、目的意識のはっきりした発表を行えるように準備をしていきたいです。  
(来田)

前々から報告に向けて準備はしていたのですが、いざ報告の場に立つとなかなか思うように喋れません…。中間報告では職員や先生の方々に意見やアドバイスを頂き、只今それを咀嚼している最中です。その中で多くの方々から同じような指摘を受けることになり、そのいずれもが自身に思い当たる部分であった為、先生方の観察眼にとっても驚かされました。是非とも最終報告では納得のいく締めくくりをしたいものです。  
(藤本)

審査員の貴重なコメントを頂き、大変勉強になりました。具体性、独自性の不足が問題点で、辿々しい日本語に力の弱さを感じ、やはり社会人並の日本語力を持っていないと思いました。社会に出るから、留学生や外国人だから緩い目で見られる環境はありませんので、自分に対する要求を高くすべきだと思いました。立派な社会人になることを目指し、卒業する前の勉強期間を大切にしたいです。  
(張)

普段とは異なる緊張感もあり、自分のプレゼンテーションは全く出来ませんでした。審査員の皆様からの的確なご指摘を頂き、未熟な点多すぎたと反省しております。発表内容とインターンシップが結びついていなかったことは、一番の矛盾となりました。貴重なお言葉を真摯に受け止め、最終発表会に向け精進します。  
(宮澤)



# 新年の抱負

2014年もインターン生をよろしくお願い致します！

「翔」

今年は、就活という重要な人生の分岐点を迎えています。目標に向かって飛翔できるように、この一年頑張りたいと思います。  
(東谷)



「外」

2014年はより広く、外向きの志向に切り替えていきたいと思っています。これまで長年持っていた内に閉じこもる性格を改善し、自ら外側に出ていこうとする気概を身につけることが本年の目標です。  
(藤本)



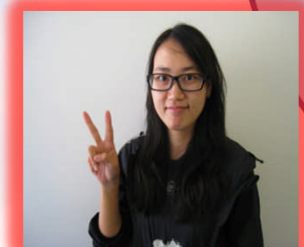
「蒔」

何年後かに芽吹き、花開くような種をたくさん蒔いていく1年にしたいと思います。大学生活も折り返し地点を迎え、そろそろ学生生活の終わりが見えてきました。残り少なくなってきた学生でいられる時間を思う存分有効に使ってきたいと思います。  
(来田)



「行」

2013年嬉しいことと悩むことが五分五分の一年だったと思います、そして、沢山の出会いのあった一年でもあります。学生生活は残すところわずか3ヶ月となり、4年間の大学生活を振り返りたくなった気持ちがあります。この間、困難を乗り越え、頑張った時期もあり、時間を浪費することもありました。公平な時間のなか、最終的にどのような人間になるのかはこの時間を何に使うかによります。私もなりたい自分の理想像を持っています。この目標を目指し、日々の時間を大切にしたいです。  
(張)



「超」

今年は自分にとって、勝負の年になると思います。限られた時間の中で、何を考え、何をするのか。今以上に行動して“夢”を目標にします。何らかの方法で、海外に行き、英語力を磨きたいです。  
(宮澤)

